

2002年度
講義計画

桃山学院大学

中華民國
二十六年
五月

第
一
卷

第
一
期

第
一
號

第
一
頁

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語V (上級)	01	通 期	2単位	サンドラ ヒーリ Sandra Healy
[講義概要・学習目標] This is a task based course that aims to improve confidence and fluency through real life tasks. The students will engage in meaningful tasks in pairs or small groups. Language acquisition will be aided by personalised practice that will challenge and motivate the students.	[講義計画] Weeks 1 and 2 - Meeting people for the first time Weeks 3 and 4 - Describing childhood memories Weeks 5 and 6 - Describing towns and cities, planning a tour Weeks 7 and 8 - Life experiences, discussing famous people Weeks 9 and 10 - Thinking about the future, ambitions, job interviews Weeks 11 and 12 - Thinking about television, discussing the news Weeks 13, 14 and 15 - Review and consolidation Weeks 1 and 2 - Talking about people's social habits in your country Weeks 3 and 4 - Describing objects and personal possessions Weeks 5 and 6 - Talking about changes happening in society Weeks 7 and 8 - Phone conversations Weeks 9 and 10 - Agreeing and disagreeing Weeks 11 and 12 - Talking about decisions, describing behaviour and reactions Weeks 13, 14 and 15 - Review and consolidation			
[成績評価の方法] Students will be assessed by classwork, attendance and quizzes.	[参考文献]			
[教科書] Cutting Edge, Intermediate, Sarah Cunningham and Peter Moor, Longman				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語V (上級)	02	通 期	2単位	ジェフリー ヘリック Jeffrey Herrick
[講義概要・学習目標] <i>Course Description / objective</i> THIS COURSE WILL FOCUS ON VOCABULARY-BUILDING AND CULTURAL COMPARISON. THE OBJECTIVE WILL BE TO INCREASE COMMUNICATIVE SKILLS	[講義計画] <i>syllabus</i> THE TEXT HAS TWELVE CHAPTERS, SO WE WILL SPEND ABOUT TWO PERIODS ON EACH.			
[成績評価の方法] <i>evaluation</i> THE STUDENTS WILL BE EVALUATED BY CLASS PARTICIPATION AND WRITTEN ASSIGNMENTS.	[参考文献]			
[教科書] <i>text</i> THE POWERFUL READER, BY BETH M. PACHECO, AND JOAN YOUNG GREGG MACMILLAN LANGUAGEHOUSE				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語Ⅴ（上級）	03	通 期	4単位	エレン ヘッド Ellen Head
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>This course will focus on issues in contemporary life. News stories, video clips and even pop music will be used as a stimulus for discussion, vocabulary work and role play. There will be a chance for students to work in groups on a topic of their choice to prepare a group presentation. The course requires a high level of skill in English and active participation from all the course members. Some homework will be required. There will be a short test in the first week to ensure that students have the required standard of English to take the course.</p>	<p>[講義計画]</p> <p>At the beginning of the course we will focus on our experiences of travel and the cultural differences between countries or even between parts of one country. Then we will move to consider education, teenagers and youth culture. In the later stages of the course students will be asked to work in groups on themes of their own, and prepare and give poster-based presentations.</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>The course will be graded using continuous assessment. The continuous assessment mark will include students' attendance and participation in class, homework, performance in short vocabulary tests and performance in a final group presentation.</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>授業中に指示する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育社会学		通 期	4 単位	山 内 乾 史
[講義概要・学習目標] 本講義は、教育の世界で起る諸問題を社会学的視点から捉えていく方法について検討することを目的とする。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に巨視的な分析方法が必要とされる。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起る諸問題を解説していく。 講義は多人数になることが予測されるので、OHPやビデオによる資料提示が多くなることと思われる。	[講義計画] 1. イントロダクション 2. 教育社会学とは何か？：日米英を比較検討していく基本的枠組みについて 3. 日本における学歴社会学（1）～（3） 4. アメリカ合衆国の教育史（1）～（3） 5. イギリスの教育史（1）～（3） 6. 日本における学力低下問題と改革（1）～（3） 7. アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（1）～（3） 8. イギリスにおける学力低下問題と改革（1）～（3） 9. 日本における大学改革と教育機会の変化（1）～（2） 10. アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（1）～（2） 11. イギリスにおける大学改革（1）～（2） 12. まとめ：日米英の教育問題と教育改革			
[成績評価の方法] 成績評価は試験とレポート、及び授業時に課すクイズによる。具体的な方法については、講義の時に指示する。	[参考文献] 宮崎和夫・米川英樹編『現代社会と教育の視点（第三版）』ミネルヴァ書房、2002年			
[教科書] 米川英樹・江原武一編『自己意識とキャリア形成—アメリカ高校卒業生にみる—』学文社、1996年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代史		春学期集中	4 単位	佐 賀 朝
[講義概要・学習目標] 本講義では、「近代大阪の都市社会史」というテーマのもと、近代の巨大都市である大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。 特に、①都市住民の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係を具体的に明らかにすること、②巨大都市をノッペラボーなものとして捉えるのではなく、その構成要素であるさまざまな地域社会の特色や個性に注目すること、③フィールドワークや聞き取りも含めたさまざまな史料を多面的に活用し、分析すること、などを重視したい。 まず前半では、明治期の都市内の地域社会として、遊廓、貧民窟と盛り場、工場地域などを取り上げて、その社会構造を分析していく。後半では、大正～昭和戦前期の都市社会について、米騒動や住宅問題などの都市社会問題、都市における「侠客」（きょうかく）の役割、大阪の町内会と学区、などを取り上げて論じていく。 また、可能であれば、博物館の見学や大阪のまちを歩くフィールドワークを企画することも予定している。 全体を通して、人間が生活・労働をいとなみ、文化が創造される場である地域社会の構造とその変化を的確に捉える方法を学び、現代の地域社会が抱える課題に向き合うための基本的な視点を獲得することを目標とする。	[講義計画] おおむね以下のようなテーマを論じる予定。 明治期大阪の都市内地域 遊廓と地域社会—松鳴遊廓の成立— 長町と千日前—貧民移転問題を素材に— 工場と地域社会—造幣局を素材に— 米騒動の勃発と方面委員制度の発足・展開 日本橋「裏長屋」の生活と不良住宅地区改良事業 大正～昭和期の「侠客」と都市社会 住宅問題と借家争議 大阪の町内会・学区と地域支配			
[成績評価の方法] 出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。	[参考文献] 原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年） 佐藤信・吉田伸之編『都市社会史』（山川出版社、2001年） 以上のほか、授業のなかで随時、提示する。			
[教科書] 随時、プリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
労働経済論		春学期集中	4単位	小川 登
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>大学に学ぶ学生諸君は、卒業後、自らを労働力商品（生涯賃金は約3億円）として売り続け、それで生活する賃金労働者となる。しかし、現実には労働内容に見合った対価を確保することは難しい。3億円もする商品を、品質向上・努力なしで売ろうとすることには無理がある。経済活動中における労働力の位置と役割、その価値決定の仕組みを知らずしては、良質な労働力商品の生産、維持管理、品質改良は果たせない。そのことを軽視するものは、自らの商品価値を破壊することになる。</p> <p>この授業では、前期に就職差別、反差別の経済学、労働組合の必要性等々に焦点を当てながらアメリカ合衆国の労働組合理論を紹介する。後期には、労働経済学全般について触れながら、特に熟練の形成について論じる。</p> <p>労働力商品は、他の商品と比べて、「生きた赤いハートをもった商品」であること。その特殊性を理解することが、この授業における基礎目標である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>I. 労働組合の思想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 労働者と知識人と資本家 2. 資本主義と差別と公正 3. 労働組合観をめぐる思想対立 4. 労働運動についての代表的理論 5. S. パールマンの労働運動論 6. ホクシーの労働組合主義論 <p>II. 仕事の経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知的熟練 2. 大企業労働者のキャリア 3. 大卒ホワイトカラーの人材開発 4. 報酬 5. 長期雇用と解雇 6. 現代の理論 7. 中小企業労働者 8. 女性労働者 9. 高年労働者 10. 日本方式の海外通用性 11. 働く場での労働組合 12. マクロの経済学 13. 基礎理論と段階論 14. 日本の仕事方式の将来 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>春学期末試験。ただ、下記の2冊の教科書は必ず買うこと。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>野村 正実(著)『知的熟練論批判』(ミネルヴァ書房)。 小川 登(著)『労働経済論の基本問題』(ミネルヴァ書房)。 隅谷 三喜男(著)『労働経済論』(筑摩書房)。 島田 晴雄(著)『労働経済論』(岩波書店)。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>小川 登(著)『労働組合の思想』(日本評論社、1981年)。 小池 和男(著)『仕事の経済学』(東洋経済新報社、1999年)。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業社会学		春学期集中	4単位	上田 修
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>いわゆるバブル経済の崩壊とともに、金融関連産業を中心として日本企業に対する評価が著しく低下した。金融不安はいまでもなく、リストラ、企業倒産による失業者の増大、さらにグローバルスタンダードのかけ声と共に、かつて日本的と称され、良好な国際的パフォーマンスの一因とみなされた制度、特徴に対する信頼は揺るぎ、評価の大幅な低下に結びついている。</p> <p>しかし、戦後の時期に限っても、日本企業の雇用・人事管理をはじめとする様々な特徴・特質に対する評価は、時期によって大きく変わってきた。この点を念頭におき、この授業では、日本企業が採用する雇用・人事・労務管理制度の特徴をアメリカ、ヨーロッパの企業と比較しながら検討するとともに、いかにこれらに変化してきたのかを明らかにする。同時に、これらの日本の特質とされる事柄が働く人々の生活や社会関係にどのような問題を投げかけているのかを考察する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>I 総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本企業をめぐる評価とその変遷 2 日本の特質と実態 <p>II 制度と政策の歴史的展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 労務管理：年功制から能力主義へ 2 人事管理：伝統的管理と能力主義 3 雇用管理：終身雇用の動揺と多様化する雇用 4 賃金：平等と格差 5 労使関係と労働組合：企業別組合と協調的労使関係 <p>III 変わる労働世界</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 労働市場の変容と労働政策の転換 2 女性労働の増大：均等法と女性の労働世界 3 ホワイトカラーの労働と管理 4 企業社会：存続それとも動揺？ 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験の成績で評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>各講義概要(レジュメ)に添付する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。ただし、各パートに入る時、講義内容の概略(レジュメ)を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化史		春学期集中	4 単位	梅 山 秀 幸
[講義概要・学習目標] 未曾有の不況に見回れ、わが世の春を謳歌した経済大国の「日本」も存亡の危機に瀕するとともに、かつて自信満々に語られた日本論も影を潜めたかのようである。日本人の自己認識としての日本文化論という、学問のよって立つ基盤そのものも検討しなおさなければならないだろう。日本列島に住んで、生活しているのはなにも日本人だけでは限らない。出自を異にしながらもこの日本列島に住んだ人々の手によって創造されたさまざまな文化事象を、時間の縦の系列の視点に空間の横の系列の視点を交錯させながら見ていきたい。また、鏡に写すことによってしか自己の姿は把握できないというのも真実である。天下統一をなした豊臣秀吉は日本では英雄であっても、朝鮮半島では侵略者として五百年にも及ぶ「ハン（根）」の対象であり、同じく明治の元勳の伊藤博文は盗賊日本の代表者である。「脱亜論」を書いた福沢諭吉をはたしてどう考えるべきなのであろうか。		[講義計画] 1、朝鮮半島の文化について 2、沖縄の文化について 3、アイヌの文化について 4、柳田国男の山人論 5、折口信夫のマレヒト論 6、『古事記』・『日本書紀』の神話 7、『三国史記』・『三国遺事』の神話 8、“みやび”から“もののあはれ”へ 9、“ハン”と“もののあはれ” 10、“大和魂”について 11、『於干野譚』の語る文禄・慶長の役 12、福沢諭吉の「脱亜論」		
[成績評価の方法] レポートによる		[参考文献] 金達寿『朝鮮』 外間守善『沖縄の歴史と文化』 柳田国男『山の生活』・『遠野物語』 折口信夫『古代研究』 和辻哲郎『日本精神史研究』 『古事記』・『日本書紀』（岩波古典文学大系）など その他、授業時に述べる。		
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	大 石 正 晴
[講義概要・学習目標] 言語学は、「言語とは何か」とか、「言語はどのように働くか」という根本的な問いに答えようとする学問である。もう少し厳密に言えば、言語の本質・構造・他の文化現象との関連・および言語の歴史的变化の研究等を目的とするものである。 人間の生活に占める言語の役割は極めて重要であることは言うまでもないが、特に、人間の知的活動のすべては、根源的には言語と密接に結びついているといえる。従って、言語という特別の信号体系を、それを構成する諸要素、即ち、音・語・文・意味等を体系的に明らかにし理解しておくことは、言語使用の面から見ても極めて意義のあることであろう。 本講義では次のような問題点も含めてみていくことにする。即ち、『すべての言語に共通する特徴は何か』、『人間の言語と動物の伝達にはどのような違いがあるか』、『子供はどのようにして話すことを学ぶか』、『文字のない言語をどのように記録し、分析するか』、『言葉はなぜ変化するか』、『社会構造の違いがどのように言語に反映するか』などである。 言語の解明を通して人間や文化の理解にまで到達できればと願っている。		[講義計画] 次の諸問題について考察する。 ・ 言語とは何か ・ 言語研究の概観 ・ 言語の内部構造—音・語・文・意味等 ・ 言語使用の問題—聞き手がどのようにして、話し手が意図した意味に到達するか・話し手や書き手が個々の文を首尾一貫してまとまりをなす全体にまと めあげる時に使うさまざまな手段等 ・ 言語の外側をとりまくもの—言語と社会・言語と心・言語の変化・普遍文法等		
[成績評価の方法] 試験と講義への出席度による。		[参考文献] 「現代の言語学」（金星堂）他、適宜紹介する。		
[教科書] 改定新版 「入門言語学」 ジーン・エイチソン著 田中晴美／田中幸子／若月 剛 訳 金星堂 （¥2,600＋税）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化論		秋学期集中	4 単位	深 澤 徹
[講義概要・学習目標] 日本人が自ら日本の文化について問うとは、どういう営みなのか。日本人は、日々日本の文化の中で暮らしている。つまり日本文化は、私たち日本人にとっては空気みたいな存在で、普段は意識もしないし、見えもしない。それについて論ずるということは、その見えないものを見るようにし、意識していないもの意識化する営みである。言い換えれば、自らの姿を「鏡」に写して、自らの「自画像」を描く試みである。ではその「鏡」とはなにか。それをどこからもつてくるのか。そうした原理的な問題を、過去に書かれた代表的な「日本文化論」のテキストを題材にしながら、考えていく。	[講義計画] 第1講：日本文化論の四つのマトリクス 第2講：自己を映す「鏡」としてのオリエンタリズム 第3講：日本文化論としてのアニメ「もののけ姫」 第4講：近代「国民（民族）国家」の成り立ちとその展開 第5講：中国学としての朱子学と、その反逆者たちの群 第6講：未だない国家を夢想した「国学」たちの営み 第7講：ルースベネディクト『菊と刀』のもたらした功罪			
[成績評価の方法] 出席状況、及び教場試験を2回行って、総合的に評価する。	[参考文献] 加藤典洋『日本人の自画像』（岩波書店） 南博『日本人論』（岩波書店）			
[教科書] 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		春学期集中	4 単位	有川康二
[講義概要・学習目標] 日本語学習者の質問。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも、何故「な」に濁点をつけて「な`」にしても発音できないの？「大型」は「おおがた」。でも、何故「大風」は「おおがぜ」と言わないの？「病気の人」とは言うけど、何故「元気の人」とは言わないの？「猫が金魚が食べた」は変だけど、この時、頭の中の中ではどんなことが起こっているの？ 日本語話者なら誰でも日本語を自由に「使える」が、その仕組みを体系的に「説明」できない。（誰でも脳味噌は使えるが、そのメカニズムは説明できない。）「経験科学」の手法を用いてヒト脳言語野のメカニズムを探る。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まる。その意味では、「自然言語（ことばをしゃべる）」は「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」とともに科学の格好の対象である。 日本語を三つの視点から概論する。（1）生物言語学の視点＝自然が創り上げた脳の創発的自己組織化の過程で出現した自然言語の一般的性質とは何か？（2）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって日本語の客観的な説明とは何か？（3）哲学的視点＝私とは何者なのか？私はこの宇宙の中で何をしながら死を待っているのか？（こんなことは大学とお寺でしか言われないので我慢してください。）	[講義計画] (1) 音特徴情報処理のインターフェースにおける原理とメカニズム（簡単に言えば「音」の問題） (2) 文全体の意味特徴情報処理のインターフェースに至る過程から音特徴が剥ぎ取られた後、音特徴情報処理インターフェースに至る早い段階における原理とメカニズム（簡単に言えば「単語」の問題） (3) 文全体の意味特徴情報処理のインターフェースに至るまでの構造形成の過程における原理とメカニズム（簡単に言えば「文」の問題）			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 井上和子・原田かづ子・阿部泰明『生成言語学入門』大修館書店			
[教科書] 上山あゆみ『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』（くろしお出版）				

「英語 I A」 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 〈春〉	近藤 撰子	〈スポーツ推薦クラス〉	山本英一	<i>A Practical Course in English Grammar</i>	弓プレス
05 〈秋〉	金城 盛紀	〈再履修クラス〉	角山照彦 Simon Capper	<i>English with Hit Songs</i> (ポップスで学ぶ総合英語)	成美堂
06 〈秋〉	近藤 撰子	〈再履修クラス〉	登美博之	<i>Let's Write!</i>	朝日出版社
11 〈春〉	小野 良子	経 済	Cubic Listening	<i>Puzzle It Out</i>	Macmillan Language House
12 〈春〉	後藤 正次	経 済	後藤正次	<i>The Introductory Studies of Current English(2)</i>	山口書店
13 〈春〉	出原 博明	経 済		プリント	
14 〈春〉	中井 紀明	経 済	Ohashi Hisatoshi	<i>Ethnic Peoples Shaping the 21st century</i>	成美堂
15 〈春〉	伊藤 貞基	経 済	Margaret Stawowy 沢登春仁	アメリカの街角 <i>New American Crossroads</i>	成美堂
16 〈春〉	上村 淳子	経 済	熊井信弘 Stephen Timson	<i>Smash Hit Listening</i>	Macmillan Language House
17 〈春〉	後藤 正次	経 済	後藤正次	<i>The Introductory Studies of Current English(2)</i>	山口書店
18 〈春〉	井上 恭英	経 済	James Kirkup	<i>Folktales of Ireland</i>	成美堂
19 〈春〉	山科 美和子	経 済		未定	
20 〈春〉	横山 三鶴	経 済	光藤京子・上杉恵美 Richard A. Smith	<i>My New York Sketchbook</i>	三修社
31 〈春〉	遠山 淳	社 会	Timothy Kiggell Helen Donald	<i>CUBIC LISTENING SURPRISE,SURPRISE</i>	Macmillan Language House

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
32 〈春〉	佐々木 英 哲	社 会	杉森幹彦 Harry Dauer 杉森直樹 大塚朝美	トピック・リスリング <i>A Topic Listening Course for the New Millennium</i>	南 雲 堂
33 〈春〉	野 原 康 弘	社 会	吉田研作	ビデオ使用（テキストはあり ません） 『起きてから寝るまで英会話』 vol. 1	NHK
34 〈春〉	三 宅 亨	社 会		使用しない	
35 〈春〉	木 村 ゆ み	社 会	角岡賢一	<i>College English is Fun!</i> (楽しく学べる大学英語)	松 柏 社
36 〈春〉	西 崎 和 子	社 会	Patricia K. Flanigan	<i>Focus on Listening Part I</i>	松 柏 社
37 〈春〉	野 原 康 弘	社 会	吉田研作	ビデオ使用（テキストはあり ません） 『起きてから寝るまで英会話』 vol. 1	NHK
38 〈春〉	林 宅 男	社 会		プリント教材	
51 〈春〉	川 上 与志夫	社会福祉	船田秀佳	<i>Drills for Listening and Dictation</i>	弓プレス
52 〈春〉	坂 本 姫 子	社会福祉		NHKラジオ 英会話入門	NHK
53 〈春〉	遠 山 淳	社会福祉	Timothy Kiggell Helen Donald	<i>CUBIC LISTENING SURPRISE, SURPRISE</i>	Macmillan Language House
61 〈春〉	井 上 恭 英	経 営	Bob Greene	<i>Eye for America</i>	南 雲 堂
62 〈春〉	佐 藤 充 弘	経 営	早坂信他	<i>Basic Listening for the TOEIC® Test</i>	成 美 堂
63 〈春〉	三 宅 敦 子	経 営	Norma shapiro & Jayme Adelson- Goldstein	① <i>The Oxford Picture Dictionary (English-Japanese Editon)</i> ② <i>The Oxford Picture Dictionary Beginning Workbook</i>	Oxford 大学出版局

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
64 〈春〉	横町治子	経営	Nobuhiro Kumai JACET関西支部リスニング研究会	<i>Smash Hit Listening</i> 英語のリスニングストラテジー	Macmillan Language House 金星堂
65 〈春〉	井上恭英	経営	Bob Greene	<i>Eye for America</i>	南雲堂
66 〈春〉	上田洋子	経営	寺内正典 他	<i>Interactions-Read and Express yourself</i>	三修社
67 〈春〉	佐藤充弘	経営	早坂信 他	<i>Basic Listening for the TOEIC® Test</i>	成美堂
68 〈春〉	横町治子	経営	Nobuhiro Kumai JACET関西支部リスニング研究会	<i>Smash Hit Listening</i> 英語のリスニングストラテジー	Macmillan Language House 金星堂
81 〈春〉	大石正晴	法学	NICHOLAS SAMPSON	<i>MOVE AHEAD</i>	Macmillan Language House
82 〈春〉	岡田章子	法学	Jeremy Angel	<i>Long Live Animals!</i>	Kirihara Shoten
83 〈春〉	清水真一	法学		プリント配布	
84 〈春〉	中村祥子	法学	Richard Powell	<i>Viewpoints in Law</i>	Macmillan Language House
85 〈春〉	橋内武	法学	Burleigh, David and Leonard Sanders	<i>Write Up: From Sentences to Paragraphs.</i>	Macmillan Language House
86 〈春〉	藤森かよ子	法学	山口俊治 Timothy Minton	<i>The Road From Writing to Speaking</i> コミュニケーションのための 口語英作文	成美堂

「英語ⅡA」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 〈秋〉	近藤 撰子	〈スポーツ推薦クラス〉	山本英一	<i>A Practical Course in English Grammar</i>	弓プレス
11 〈秋〉	小野 良子	経済	Cubic Listening	<i>Getting Down To Business</i>	Macmillan Language House
12 〈秋〉	後藤 正次	経済	後藤正次	<i>The Introductory Studies Current English(2)</i>	山口書店
13 〈秋〉	出原 博明	経済		プリント	
14 〈秋〉	中井 紀明	経済		後日指示する	
15 〈秋〉	伊藤 貞基	経済	Margaret Stawowy 沢登春仁	アメリカの街角 <i>New American Crossroads</i>	成美堂
16 〈秋〉	上村 淳子	経済	熊井信弘 Stephen Timson	<i>Smash Hit Listening</i>	Macmillan Language House
17 〈秋〉	後藤 正次	経済	後藤正次	<i>The Introductory Studies of Current English(2)</i>	山口書店
18 〈秋〉	井上 恭英	経済	James kirkup	<i>Folk tales of Ireland</i>	成美堂
19 〈秋〉	山科 美和子	経済		未定	
20 〈秋〉	横山 三鶴	経済	光藤京子・上杉恵美 Richard A. Smith	<i>My New York Sketchbook</i>	三修社
31 〈秋〉	遠山 淳	社会	Timothy Kiggell Helen Donald	<i>CUBIC LISTENING SURPRISE,SURPRISE</i>	Macmillan Language House
32 〈秋〉	佐々木 英哲	社会	杉森幹彦 Harry Dauer 杉森直樹 大塚朝美	トピック・リスニング <i>A Topic Listening Course for the New Millennium</i>	南雲堂

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
33 〈秋〉	野原 康 弘	社 会	吉田研作	ビデオ使用（テキストはありません） 『起きてから寝るまで英会話』 vol. 2	NHK
34 〈秋〉	三 宅 亨	社 会		使用しない	
35 〈秋〉	木 村 ゆ み	社 会	角岡賢一	<i>College English is Fun!</i> (楽しく学べる大学英語)	松 柏 社
36 〈秋〉	西 崎 和 子	社 会	Patricia K. Flanigan	<i>Focus on Listening Part II</i>	松 柏 社
37 〈秋〉	野原 康 弘	社 会	吉田研作	ビデオ使用（テキストはありません） 『起きてから寝るまで英会話』 vol. 2	NHK
38 〈秋〉	林 宅 男	社 会		プリント教材	
51 〈秋〉	川 上 与志夫	社会福祉	船田秀佳	<i>Drills for Listening and Dictation</i>	弓プレス
52 〈秋〉	坂 本 姫 子	社会福祉		NHKラジオ 英会話入門	NHK
53 〈秋〉	遠 山 淳	社会福祉	Timothy Kiggell Helen Donald	<i>CUBIC LISTENING SURPRISE, SURPRISE</i>	Macmillan Language House
61 〈秋〉	井 上 恭 英	経 営	Bob Greene	<i>Eye for America</i> 春学期に上記テキストを試し に试试看、統一教材等との 補完関係がうまく行くよう でしたら、上記テキストを継続 使用の予定です。	南 雲 堂
62 〈秋〉	佐 藤 充 弘	経 営	早坂信他	<i>Basic Listening for the TOEIC® Test</i>	成 美 堂
63 〈秋〉	三 宅 敦 子	経 営	Norma shapiro & Jayme Adelson- Goldstein	① <i>The Oxford Picture Dictionary (English-Japanese Edition)</i> ② <i>The Oxford Picture Dictionary Beginning Workbook</i>	Oxford 大学出版局

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
64 〈秋〉	横町治子	経営	Nobuhiro Kumai JACET関西支部リスニング研究会	<i>Smash Hit Listening</i> 英語のリスニングストラテジー	Macmillan Language House 金星堂
65 〈秋〉	井上恭英	経営	Bob Greene	<i>Eye for America</i> 春学期に上記テキストを試し に使ってみ、統一教材等との 補完関係がうまく行くよう でしたら、上記テキストを継続 使用の予定です。	南雲堂
66 〈秋〉	上田洋子	経営	寺内正典 他	<i>Interactions-Read and Express yourself</i>	三修社
67 〈秋〉	佐藤充弘	経営	早坂信 他	<i>Basic Listening for the TOEIC® Test</i>	成美堂
68 〈秋〉	横町治子	経営	Nobuhiro Kumai JACET関西支部リスニング研究会	<i>Smash Hit Listening</i> 英語のリスニングストラテジー	Macmillan Language House 金星堂
81 〈秋〉	大石正晴	法学	NICHOLAS SAMPSON	<i>MOVE AHEAD</i>	Macmillan Language House
82 〈秋〉	岡田章子	法学	Jeremy Angel	<i>Long Live Animals!</i>	Kirihara Shoten
83 〈秋〉	清水真一	法学		プリント配布	
84 〈秋〉	中村祥子	法学	Richard Powell	<i>Viewpoints in Law</i>	Macmillan Language House
85 〈秋〉	橋内武	法学	Burleigh, David and Leonard Sanders	<i>Write Up: From Sentences to Paragraphs.</i>	Macmillan Language House
86 〈秋〉	藤森かよ子	法学	山口俊治 Timothy Minton	<i>The Road From Writing to Speaking</i> コミュニケーションのための 口語英作文	成美堂

「英語 I B」 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 〈春〉	Terence J. O'Brien	〈スポーツ推薦クラス〉	O'Brien, Terry	<i>A Trip to Britain</i>	南雲堂
05 〈秋〉	Kevin R. Gregg	〈再履修クラス〉		なし	
06 〈秋〉		〈再履修クラス〉		授業開始時に指示する	
07 〈秋〉	Ellen Head	〈再履修クラス〉		授業開始時に指示する	
11 〈春〉	Raoul Cervantes	経 済	Steven Molinsky Jack c. Richards	<i>Side by Side Book 1</i> <i>Basic:Tactics For Listening</i>	Pearson ESL OUP
12 〈春〉	Katia Peron	経 済	Angela Buckingham & Miles Craven	<i>Get Real!-Student Book2</i> (+Teacher's Book2) (+Class Audio CD)	Heinemann
13 〈春〉	Louise Pender	経 済	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty Fifty Intro</i> ①Teacher's Manual ②Cassette	Prentice Hall Asia
14 〈春〉		経 済		授業開始時に指示する	
15 〈春〉	Ellen Head	経 済		授業開始時に指示する	
16 〈春〉	Ronald Cline	経 済			
17 〈春〉	Raoul Cervantes	経 済	Steven Molinsky Jack c. Richards	<i>Side by Side Book 1</i> <i>Basic:Tactics For Listening</i>	Pearson ESL OUP
18 〈春〉	Louise Pender	経 済	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty Fifty Intro</i>	Prentice Hall Asia
19 〈春〉		経 済		授業開始時に指示する	
20 〈春〉	Ellen Head	経 済		授業開始時に指示する	

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
31 〈春〉	Michael Carroll	社 会	Marc Hegelsen, Steven Brown & Thomas Mandeville	<i>English Firsthand 1</i> ISBN 962- 00- 1539- 8	Longman
32 〈春〉	Ronald Cline	社 会			
33 〈春〉	Sandra Healy	社 会	Marc Helgesen et al	<i>English Firsthand 1</i>	Longman
34 〈春〉	Lynne Douglas	社 会			
35 〈春〉	Denise Haugh	社 会	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty-Fifty</i> <i>An Introductory Course in</i> <i>Communicative English</i>	Prentice Hall
36 〈春〉	Carlquist L. Harris	社 会	Molinsky & Bliss	<i>Express Ways 2</i>	Prentice Hall Regents
37 〈春〉		社 会		授業開始時に指示する	
38 〈春〉	Ellen Head	社 会		授業開始時に指示する	
51 〈春〉	Denise Haugh	社会福祉	Angela Buckingham Miles Craven	<i>Get Real Student Book2</i>	Macmillan Language House
52 〈春〉		社会福祉		授業開始時に指示する	
53 〈春〉	Ellen Head	社会福祉		授業開始時に指示する	
61 〈春〉	Terence J. O'Brien	経 営	O'Brien, Terry	<i>A Trip to Britain</i>	南 雲 堂
62 〈春〉	Jeffrey Herrick	経 営	Richard R. Day Junko Yamanaka	<i>ST+</i> <i>Impact Topics</i>	Longman
63 〈春〉		経 営		授業開始時に指示する	
64 〈春〉	Ellen Head	経 営		授業開始時に指示する	

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
65 〈春〉	Terence J. O'Brien	経営	O'Brien, Terry	<i>A Trip to Britain</i>	南雲堂
66 〈春〉	Philip Billingsley	経営		なし	
67 〈春〉		経営		授業開始時に指示する	
68 〈春〉	Ellen Head	経営		授業開始時に指示する	
81 〈春〉	大石正晴	法学	kazushi Kazumi 他	<i>SNAPSHOTS OF LIFE TODAY</i>	朝日出版社
82 〈春〉	岡田章子	法学	Mallory Fromm	<i>The Global Community</i>	成美堂
83 〈春〉	清水真一	法学		プリント配布	
84 〈春〉	中村祥子	法学	田吹昌俊 Robert Long	<i>Critical Insight on Contemporary Issues</i>	成美堂
85 〈春〉	橋内武	法学	Leonard, Julian and Stuart Buckman	<i>Groundbreakers.</i>	Macmillan Language House
86 〈春〉	藤森かよ子	法学	Nicola Charles and Janice James	<i>Know Your Law: The Essential Question and Answer Guide</i>	南雲堂

「英語ⅡB」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 〈秋〉	Terence J.O'Brien	〈スポーツ推薦クラス〉			
11 〈秋〉	Raoul Cervantes	経 済	Steven Molinsky Jack c. Richards	<i>Side by Side Book 1</i> <i>Basic:Tactics For Listening</i>	Pearson ESL OUP
12 〈秋〉	Katia Peron	経 済	Angela Buckingham & Miles Craven	<i>Get Real!-Student Book2</i>	Heinemann
13 〈秋〉	Louise Pender	経 済	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty Fifty Intro</i>	Prentice Hall Asia
14 〈秋〉		経 済		授業開始時に指示する	
15 〈秋〉	Ellen Head	経 済		授業開始時に指示する	
16 〈秋〉	Ronald Cline	経 済			
17 〈秋〉	Raoul Cervantes	経 済	Steven Molinsky Jack c. Richards	<i>Side by Side Book 1</i> <i>Basic:Tactics For Listening</i>	Pearson ESL OUP
18 〈秋〉	Louise Pender	経 済	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty Fifty Intro</i>	Prentice Hall Asia
19 〈秋〉		経 済		授業開始時に指示する	
20 〈秋〉	Ellen Head	経 済		授業開始時に指示する	
31 〈秋〉	Michael Carroll	社 会	Marc Hegelsen, Steven Brown & Thomas Mandeville	<i>English Firsthand 2</i> <i>ISBN 962- 00- 1540- 1</i>	Longman
32 〈秋〉	Ronald Cline	社 会			
33 〈秋〉	Sandra Healy	社 会	Marc Helgesen et al	<i>English Firsthand 1</i>	Longman

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
34 〈秋〉	Lynne Douglas	社会			
35 〈秋〉	Denise Haugh	社会	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty-Fifty An Introductory Course in Communicative English</i>	Prentice Hall
36 〈秋〉	Carlquist L. Harris	社会	Molinsky & Bliss	<i>Express Ways 2</i>	Prentice Hall Regents
37 〈秋〉		社会		授業開始時に指示する	
38 〈秋〉	Ellen Head	社会		授業開始時に指示する	
51 〈秋〉	Denise Haugh	社会福祉	Angela Buckingham Miles Craven	<i>Get Real Student Book2</i>	Macmillan Language House
52 〈秋〉		社会福祉		授業開始時に指示する	
53 〈秋〉	Ellen Head	社会福祉		授業開始時に指示する	
61 〈秋〉	Terence J. O'Brien	経営	O'Brien, Terry	<i>Looking Around England</i>	南雲堂
62 〈秋〉	Jeffrey Herrick	経営	Richard R. Day Junko Yamanaka	<i>ST+ Impact Topics</i>	Longman
63 〈秋〉		経営		授業開始時に指示する	
64 〈秋〉	Ellen Head	経営		授業開始時に指示する	
65 〈秋〉	Terence J. O'Brien	経営	O'Brien, Terry	<i>Looking Around England</i>	南雲堂
66 〈秋〉	Philip Billingsley	経営		なし	
67 〈秋〉		経営		授業開始時に指示する	

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
68 〈秋〉	Ellen Head	経営		授業開始時に指示する	
81 〈秋〉	大石正晴	法学	kazushi Kazumi 他	<i>SNAPSHOTS OF LIFE TODAY</i>	朝日出版社
82 〈秋〉	岡田章子	法学	Mallory Fromm	<i>The Global Community</i>	成美堂
83 〈秋〉	清水真一	法学		プリント配布	
84 〈秋〉	中村祥子	法学	田吹昌俊 Robert Long	<i>Critical Insight on Contemporary Issues</i>	成美堂
85 〈秋〉	橋内武	法学	Leonard, Julian and Stuart Buckman	<i>Groundbreakers.</i>	Macmillan Language House
86 〈秋〉	藤森かよ子	法学	Nicola Charles and Janice James	<i>Know Your Law: The Essential Question and Answer Guide</i>	南雲堂

「文学部（全学科生）共通テキスト」

文学部（全学科生）の皆さんが、授業中使用する共通テキストです		
著者名	使用教科書	出版社
1	Mary K. Ruetten <i>Developing Composition Skills: Rhetoric and Grammar</i>	Heinle & Heinle Publishers (An International Thomson Publishing Company)
2	Hisako Murakawa, Hiroko Sugimoto <i>TOEFL Test Perfect Vocabulary</i>	旺文社
3	ロングマン現代英英辞典（3版）Rom付 ¥3,800 ISBN(4943835- 24- 4)	

「リーディングⅠ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 〈春集〉	上村 淳子	英語英米 〈学科必修〉	浅川和也 他	<i>Taking Actions on Global Issues</i>	三修社
12 〈春集〉	井上 恭英	英語英米 〈学科必修〉	Bob Greene	<i>Eye for America</i>	南雲堂
13 〈春集〉	山科 美和子	英語英米 〈学科必修〉	Lorraine C. Smith	<i>Insights for Today 2nd Edition</i>	松柏社
51 〈春集〉	大川 愛子	国際文化 〈学科必修〉	M. K. Ruetten Erich Fromm	<i>Developing Composition Skills: Rhetoric and Grammar</i> <i>The Art of Loving</i>	Heinle & Heinle Publishers 松柏社
52 〈春集〉	川上 与志夫	国際文化 〈学科必修〉	染矢正一 Fred Ferrasci	<i>See the American West</i>	金星堂
53 〈春集〉	太原 康雄	国際文化 〈学科必修〉	Caitlin Stronell Beverly E Lafaye	<i>Taking Action on Global Issues</i>	三修社
54 〈春集〉	釣井 千恵	国際文化 〈学科必修〉	山崎達朗 Stella M. Yamazaki	<i>News Watch:衛星放送で学ぶ英語</i>	金星堂
55 〈春集〉	林 宅男	国際文化 〈学科必修〉		プリント教材	

「リーディングⅡ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 〈秋集〉	上村 淳子	英語英米 〈学科必修〉	浅川和也 他	<i>Taking Actions on Global Issues</i>	三修社
12 〈秋集〉	井上 恭英	英語英米 〈学科必修〉	Bob Greene	<i>Eye for America</i>	南雲堂
13 〈秋集〉	山科 美和子	英語英米 〈学科必修〉		未定	
51 〈秋集〉	大川 愛子	国際文化 〈学科必修〉	Lois H. Flint	<i>Living with Others</i>	英宝社
52 〈秋集〉	川上 与志夫	国際文化 〈学科必修〉		未定	
53 〈秋集〉	太原 康雄	国際文化 〈学科必修〉	Richard Payne 杉本豊久	<i>UK Made Easy</i>	三修社
54 〈秋集〉	釣井 千恵	国際文化 〈学科必修〉	長谷川潔 秋山高之 L. P. Sanders	<i>Asian Crossroads: 最新アジア事情</i>	成美堂
55 〈秋集〉	Kevin R. Gregg	国際文化 〈学科必修〉		なし	

「オーラルコミュニケーション I」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 〈春集〉	Michael Carroll	英語英米 〈学科必修〉	Adrian Doff & Christopher Jones	<i>Language in use: Intermediate</i> ISBN 0- 521- 43552- 8	Cambridge University Press
12 〈春集〉	Katia Peron	英語英米 〈学科必修〉	Steven Gershon & Chris Mares	<i>Online-Student Book1</i> (+Teacher's Book1) (+Class Audio CD)	Heinemann
13 〈春集〉	Ronald Cline	英語英米 〈学科必修〉			
14 〈春集〉	Sandra Healy	英語英米 〈学科必修〉	Geraldine Sweeney	<i>Ideas and Issues</i>	Macmillan Language House
51 〈春集〉	Raoul Cervantes	国際文化 〈学科必修〉	Jack C Richards Jack C Richards	<i>Developing Tactics For Listening</i> <i>New Interchange Book1</i>	OUP CUP
52 〈春集〉	Lynne Douglas	国際文化 〈学科必修〉			
53 〈春集〉	Carlquist L. Harris	国際文化 〈学科必修〉	Molinsky & Bliss	<i>Express Ways 2</i>	Prentice Hall Regents
54 〈春集〉	David T. Van Ham	国際文化 〈学科必修〉	Tina Carver	<i>A Conversation Book One A Book</i> <i>IA</i> ISBN 0-13-792 458-5	Prentice Hall Regents
55 〈春集〉	Jeffrey Herrick	国際文化 〈学科必修〉		<i>No Text</i>	
56 〈春集〉	Kathryn L. マルヤマ	国際文化 〈学科必修〉	Kenny, Tom Woo, Linda	<i>Nile Talking With You</i>	Macmillan Language House

「オーラルコミュニケーションⅡ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 〈秋集〉	Michael Carroll	英語英米 〈学科必修〉	Adrian Doff & Christopher Jones	<i>Language in use: Intermediate</i> ISBN 0- 521- 43552- 8	Cambridge University Press
12 〈秋集〉	Katia Peron	英語英米 〈学科必修〉	Richard R. Day & Junko Yamanaka	<i>Impact Topics</i>	Longman
13 〈秋集〉	Ronald Cline	英語英米 〈学科必修〉			
14 〈秋集〉	Sandra Healy	英語英米 〈学科必修〉	Geraldine Sweeney	<i>Ideas and Issues</i>	Macmillan Language House

「ライティング I」 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 〈春集〉	都築郷実	英語英米 〈学科必修〉	岸野英治	大学生のための表現英文法・ 英作文	英宝社
12 〈春集〉	Robert B. Sanderson	英語英米 〈学科必修〉	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano	<i>Writing From Within</i>	Cambridge University Press
13 〈春集〉	都築郷実	英語英米 〈学科必修〉	木塚晴夫 Roger Northridge	<i>Common Errors in English Writing (Third Edition)</i>	Macmillan Language House
14 〈春集〉	Robert B. Sanderson	英語英米 〈学科必修〉	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano	<i>Writing From Within</i>	Cambridge University Press
51 〈秋集〉	Raoul Cervantes	国際文化 〈学科必修〉			
52 〈秋集〉	Lynne Douglas	国際文化 〈学科必修〉			
53 〈秋集〉	Carlquist L. Harris	国際文化 〈学科必修〉	Molinsky & Bliss	<i>Express Ways 2</i>	Prentice Hall Regents
54 〈秋集〉	David T. Van Ham	国際文化 〈学科必修〉	Tina Carver For Teacher Only	<i>A Writing Book</i> ISBN 0- 13- 187972- 3 <i>Teachers Edition</i> ISBN- 0- 13- 792441- 0 (1 Copy) <i>Testing Program</i> ISBN 0- 13- 307893- 0 (1 Copy) <i>Audio Program (Tapes)</i> ISBN 0- 13- 792474- 7	Prentice Hall Regents Prentice Hall Regents Prentice Hall Regents Prentice Hall Regents
55 〈秋集〉	Jeffrey Herrick	国際文化 〈学科必修〉	A. Hogue	<i>First Steps in Academic Writing</i>	Longman
56 〈秋集〉	Kathryn L. マルヤマ	国際文化 〈学科必修〉	Snowden, Paul	<i>Writing English at University</i>	南 美 堂

「ライティングⅡ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 〈秋集〉	都築郷実	英語英米 〈学科必修〉		講義中に指示する	
12 〈秋集〉	Robert B. Sanderson	英語英米 〈学科必修〉	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano	<i>Writing From Within</i>	Cambridge University Press
13 〈秋集〉	都築郷実	英語英米 〈学科必修〉		講義中に指示する	
14 〈秋集〉	Robert B. Sanderson	英語英米 〈学科必修〉	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano	<i>Writing From Within</i>	Cambridge University Press

[96 ~ 01 生 对 象]

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	01	春学期	2単位	松 浦 道 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、体育・スポーツの最も基本的な分野である生理学的諸法則を学びます。文化系大学では、体育・スポーツ系以外で人間の生命現象を解明する科目はほとんどありません。ですから、社会や自然を理解する以上に、人体を通して個人としての人間を理解することも大切です。そして、現代社会を積極的にたくましく、よりよく生きるために応用して下さい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体育・スポーツに関連する諸科学 2. 健康とスポーツの生理学 3. 人体の構成と細胞の役割 4. 細胞の活性化と健康 5. 骨の役割と健康・スポーツ 6. 筋の種類とその働き 7. 筋のトレーニングによる変化 8. 運動の持続時間とエネルギーの供給 9. 神経系の種類とその役割 10. 運動における情報伝達のメカニズム 11. 脳の働きと感情発現 12. 自律神経とホルモン 13. 更年期の意味とコンディショニング 14. 現代人の生活の特徴と積極的健康管理 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>適宜、受講生にエッセイを課し、最終講義日のテストと合わせて評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業の進行に合わせて知らせます。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
体育・スポーツ学講義	02	秋学期	2単位	コ ソン ハ 高 成 廈
<p>[講義概要・学習目]</p> <p>現在では、健康を“WELLNES”（良好な状態）ととらえる考え方が大勢を占めている。“WELLNES”は個人の責任や管理のもとで、最適な健康を求めるライフスタイルとみなされている。したがって、健康はできる限り良好な状態を実現するために生涯にわたっておこなわれるアプローチである。</p> <p>現代社会におけるスポーツと健康の問題点を認識し、健康であることの意義を深く考え、健康的な生活習慣の確立と実践をねらいとする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、現代社会とスポーツ <ol style="list-style-type: none"> 1、現代社会とスポーツ 2、日本のスポーツ行政の現状 3、日本のスポーツ施設の現状と問題 4、諸外国のスポーツ事情 5、スポーツと健康 6、体力づくりの方法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト2回を課して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「スポーツと健康」 石河利寛（著） 岩波新書</p>			
<p>[教科書]</p> <p>資料をプリント配布する。</p>				

概 要

「体育・スポーツ学実習」は、「健康トレーニングコース」「スポーツ文化コース」「シーズンスポーツコース」「障害者スポーツコース」「レクリエーション・スポーツコース」「スポーツトレーニングコース」から成り、種目別にクラス編成されます。この科目は予備登録ならびに履修登録が必要です。

予備登録の方法については、別紙『「体育・スポーツ学実習」予備登録要領』を参照してください。

A. 健康トレーニングコース

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
エアロビクス、ボディビルディング	男女	半 期	1 2 講 時 + レポ ー ト
トータル・ボディ・シェイプアップ	女	半 期	

B. スポーツ文化コース

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
バレーボール、バスケットボール、水泳 硬式テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ	男女	半 期	1 2 講 時 + レポ ー ト
サッカー、ハンドボール、ソフトボール 軟式野球、室内サッカー	男		
女子トリム・ソフトボール	女		
アーチェリー、剣道、柔道、ラグビー	休 講		

※（１）女子学生は、原則としてサッカー、ソフトボール、ハンドボール、ラグビー、軟式野球、室内サッカーは受講できません。

（２）ゴルフは打球費を必要とします。

（３）サッカーに経験者クラスを設けます。

C. シーズンスポーツコース

- ① スキーは、事前に学内でストックワークなどのトレーニングを2日間行い、2月中旬にスキー場で集中実習を実施します。

種 目	対 象	期 間	場 所	参 加 費	手 続
スキー	男女	2月中旬 (4泊5日)	長野県 戸隠スキー場	約35,000円 (リフト代含)	11月
スケート 集中ゴルフ 集中硬式テニス	休 講				

※スキーでは参加費以外に、交通費、スキーレンタル代などの経費が必要です。

D. 障害者スポーツコース

主に身体虚弱者、身体障害者などを対象とし、個人の体力や能力に応じて運動処方を受けます。（このコースを希望する場合には、事前に体育館事務室へ申し出てください）
なお、本コースに関心のある者の受講も認めますので、積極的に参加してください。

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
身障者スポーツ	身体障害者等	半 期	1 2 講 時 + レポ ー ト

※対象者以外で受講を希望する者は、体育館事務室で相談してください。

E. レクリエーション・スポーツコース

生涯スポーツとして、あるいは楽しい健康生活のために、カヌーイング・ヨットなどの野外活動やニュースポーツを体験し、レクリエーション技術などの能力を獲得する。

種 目	対 象	期 間	場 所	参 加 費	手 続
集中レクリエーション・スポーツ (ウイント [®] サーフィン、カヌー、ヨット)	男女	8月上旬 (2泊3日)	滋賀県 (琵琶湖)	約25,000円	6月

※参加費以外に交通費等が必要です。

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
レクリエーション・ニュースポーツ	男女	半 期	1 2 講 時 + レポ ー ト

F. スポーツトレーニングコース

このコースは、トレーニングに関心のある学生を対象として、専門的にスポーツを実践し、指導するために必要なトレーニングの理論や方法を学習します。

種 目	対 象	開 講 期 間	単 位 認 定 基 準
スポーツトレーニング	体育会に所属している学生 および一般学生	半 期	12講時+レポート

<実習受講に関する注意>

- (1) 単位認定
開講時間は12講時（24時間）+レポートを原則とします。
- (2) テキスト
必要に応じて指示します。
- (3) 更 衣
指定された場所で更衣し、貴重品は、各自ロッカーに保管して、必ず施錠してください。
- (4) 服 装
スポーツに適したウェア（水泳クラスは競泳用水着・帽子・ゴーグル）を着用すること。

(5) シューズ

グラウンドではグラウンドシューズ、テニスコートはテニスシューズ、総合体育館・トレーニングルームにおいては上ばき（体育館シューズ）を必ず使用してください。シューズは各自準備し、グラウンドと体育館との兼用は認めません。教場の変更の場合以外の貸し出しは行いません。

(6) 教 場

グラウンド、コート、体育館、ミーティングルーム、教室などの教場は、授業の進行等により教場を変更する場合があります。毎時間、総合体育館内掲示板で確認してください。

(7) 用 具

各種コースの用具は貸与しますが、各自所有の用具を使用することを勧めます。ただし、シーズンスポーツコースのスキー用具は各自で準備してください。

《注意》

更衣は指定された場所で行うとともに、盗難防止のため利用したコインロッカーは必ず施錠してください。

<欠席の取り扱いについて>

- (1) 理由のある欠席届があれば2回までの欠席は認めます。ただし、無届け欠席を2回するとその時点で受講を取り消すことがあります。
- (2) 以下の場合、原則として、「体育・スポーツ学実習」での公認欠席を認めます。
 - クラブ公式戦、学外での合宿・発表会・演奏会等、およびゼミ合宿等による欠席は、クラブ部長・顧問、ゼミ教員等の証明により公欠扱いになりますので、体育館事務室で手続きをしてください。
 - 4回生以上の就職活動（会社訪問・面接・入社試験）については、就職課の証明により公欠扱いとします。
 - 忌引については、「公認欠席取扱規程」により、学生課で手続きをしてください。
- (3) 体育実習の見学（例：風邪、腹痛、頭痛、服装の忘れ物等）は、原則として認めません。

<施設・用具の利用について>

- 授業中の教場には、受講生以外の立ち入りは禁止します。
- 体育実習の自学自習および一般学生の恒常的なスポーツ活動の実践化奨励のための施設の開放時間を設けています。用具の貸し出しも行いますので、希望者は使用可能場所・時間帯を総合体育館内掲示板等で確認して、体育館事務室窓口に申し出てください。ただし、雨天の場合は屋外で行う授業の代替教場として館内施設を使用しますので、開放は一時中止します。

<集中コース種目のガイダンスについて>

集中コースの授業は、事前にガイダンスを行いますので必ず出席してください。授業と重なる場合は体育館事務室窓口で相談してください。ガイダンス会場は追って掲示します。

- (1) 集中レクリエーション・スポーツ（ウインドサーフィン、カヌー、ヨット）
5月14日（火） 5時限目
- (2) スキー
10月22日（火） 5時限目

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅱ(人権の思想と歴史「日本」)	01 02	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	柳父 章
[講義概要・学習目標] 日本の人権の思想と歴史を、異文化との関わりという視点から考えていく。 人権という考え方は西洋で生まれた文化で、やがて世界中に広められた。だから、西洋文化が伝わる前の日本には、西洋文化における一人の人間の自由というような、個人尊重の思想はなかったわけである。これが出発点である。 しかし、それと比較して同じではないが似たような考え方はあった。まず仏教思想である。それから近世のキリタン、そして近代以後の人権思想である。 そして、西洋の人権思想と比較して、日本における「人間」というものについての考え方の特徴も分かってくる。その背景には、中国、インドの思想もある。そういう広い背景から日本の人権の問題について考えていきたい。	[講義計画] 日本の歴史には、異文化との大きな出会いには、4つのピークがある。まず古代、次に近世、そして近代、現代である。歴史の順序としてはこうであるが、人権の基本的考え方が明らかになったのは現代、とくに日本国憲法であるから、そこから出発して、次に歴史をさかのぼって考えていく、という順に講義していきたい。 ビデオをときどき使っていきたい。			
[成績評価の方法] 講義のあとで小テストをする。この小テストと、期末の試験とを総合して評価する。	[参考文献] 杉原泰雄著『人権の歴史』 岩波書店 1992			
[教科書] とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権問題Ⅳ (在日韓国・朝鮮人問題)	01 02	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	キム スギル 金 秀吉
[講義概要・学習目標] 現在、約60万人の韓国・朝鮮人が日本に定住している。この定住者を一般的に「在日韓国・朝鮮人」と称している。また、時には略して「在日」ともいわれる。 本講義を担当する私自身は在日3世であり、その体験を客観的にふまえながら、在日の<過去・現在・未来>を出来るだけ具体的に提示し、その理解と認識を深めていきたい。 その実践として、これまで在日韓国・朝鮮人を素材、またはテーマとして作られた映画(自作『潤の街』などを含む)や、テレビ・ビデオなどの映像作品をテキストとして利用することにより、在日を取りまく昨今の状況(本年、サッカーのワールドカップが日・韓共催で行われるというわりには、在日を取りまく状況性は、その共催決定前と比べ、あまり進展がないということなど)が、より具現化され、学生各自がそれぞれにとっても身近な課題であるということを理性(知識)面にとどまらず、未来の共生型社会の可能性を押しひるげてゆくための感(受)性の領域に対する喚起も探究してゆきたい。	[講義計画] 1 在日韓国・朝鮮人問題とは何か 2 在日の歴史 3 在日の現状 4 在日韓国・朝鮮人差別 5 在日はどのように表現されてきたか 6 在日をどのように表現するか 7 在日の未来と展望			
[成績評価の方法] 教室での小レポートと、期末のテストを加味して評価する。	[参考文献] 蔵田雅彦(著)「隣人としてのアジア」(日本基督教団出版局) 蔵田雅彦(著)「マイノリティーを旅する」(草風館) 田中宏(著)「在日外国人」(新版)(岩波新書) 鄭早苗・徐正禹(監修)「新・よりよき隣人として」(KMJ研究センター) 桃山学院大学(編)「定住外国人の人権」(改訂版)(桃山学院大学)			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ（インドネシアの文化概観）	01 02	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	北 野 正 徳
〔講義概要・学習目標〕 この講義では、インドネシアの文化について、その特徴となっているいくつかの事柄を取り上げて概観してゆきたい。それらは、具体的には、東南アジアの文化地図におけるインドネシア、インドネシア文化を構成している多様な民族や言語、現在私たちが知るようなインドネシア文化が形成された歴史的過程、そして現代インドネシアの文化の姿などといった事柄である。これらの事柄を知ることから、今日のインドネシア文化をより身近なものとして感じ・理解してゆくことを、この講義の目的としてゆきたい。従って、今日のインドネシアに見られる文化現象を、文芸、映画、音楽などの例をあげて紹介することも試みてゆきたい。	〔講義計画〕 1 インドネシアへの導入 2 東南アジアの文化地図のなかでのインドネシア 3 多様なインドネシア文化（民族、言語、地方文化など） 4 「インドネシア」の形成（近代史の視点から） 5 今日のインドネシア文化の姿（文芸、映画、音楽など）			
〔成績評価の方法〕 期末頃の授業時間を使って、特定のテーマを定めて論述してもらいたい。また、必要に応じて小レポートなども提出してもらおうこともある。	〔参考文献〕 綾部恒雄・石井米雄編 『もっと知りたいインドネシア第2版』 弘文堂 石井米雄（監修） 『インドネシアの事典』 同朋舎 池端雪浦編 『新版世界各国史6 東南アジア史II 島嶼部』 山川出版社 小池誠 『インドネシア 島々に織り込まれた歴史と文化』 三修社 松野明久編 『インドネシアのポピュラーカルチャー』 めこん			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅰ —西洋化問題の日韓比較—		春学期	2単位	チョン 田 ソヒ 星 姫
〔講義概要・学習目標〕 「西洋化」を手がかりに19世紀後半の日韓関係史の知識を深める。前半は、外交使節の記録を通して、一足先に西洋化していた明治時代の日本を朝鮮人がどう見ていたのかを検討する。後半は、髪形の変容を近代化問題と結びつけて論じてみたい。幕末・明治初期の日本と日清戦争直後の朝鮮における「断髪」を比較し、両国における「断髪」の相違、またその関連性を検討する。	〔講義計画〕 1 鎖国から開国への時代背景 衛正斥邪と「開化」 2 第1次修信使の日本認識 修信使派遣の経緯・日程 第1次修信使のみた明治日本 3 近代文明との出会い・異文化体験（日韓比較） 第1次修信使と万延元年の遣米使節 4 明治日本の「断髪」 明治政府の「断髪」政策 5 朝鮮の近代化努力と「断髪」 6 日本の「断髪」との関連性（日韓比較） 「断髪」に含まれる政治的意味など			
〔成績評価の方法〕 主に期末レポート評価	〔参考文献〕 『ある明治人の朝鮮観』 上垣外憲一（筑摩書房） 『断髪』 劉香織（朝日選書） その他、授業中に紹介する。			
〔教科書〕 授業中、適宜プリント配付				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ 古代インドの文学と社会	01	春 学 期	2 単 位	村 上 昌 孝
	02	秋 学 期	2 単 位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>紀元前1500年ごろ、西北インドにアーリア人が侵入したことから、古代インドの形成は始まった。アーリア人が元来持っていた宗教・社会制度などが北インドの東部へ、更には南インドに広まるにつれて先住民のそれと融合し、次第に一つのまとまったインド社会が作り上げられていった。</p> <p>インドの文学の最古層は、宗教文献の形で伝承された。アーリア人の宗教（後に、いわゆる「バラモン教」からヒンドゥー教へと変化した）で尊重されたヴェーダ文献、仏伝やジャータカなどの仏教文献が、それにあたる。紀元前後数世紀の間に、インド社会のさまざまな伝承から二大叙事詩が徐々にまとめられ、世俗の文学が萌芽していった。純粋の文学作品は、グプタ朝の時代に盛んに制作されるようになった。中世では、古代の文学の模倣・改作が中心となり、近代になって西洋文学の影響を受けるまで、さほどの変化は見られない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>古代インドの文献を、時系列を追いつつ解説していく。講義の際に使用するテキストは、必ずしも純粋の文学作品に限らず、宗教文献や補助学問に関する文献なども含める。それらの文献の日本語訳を適宜配布し読解することなどを通じて、古代インド社会、更にはその中で育まれていった古代インド文学の特徴を理解してもらう予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点とレポートにより評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>上村勝彦・宮元啓一（編）『インドの夢・インドの愛—サンスクリット・アンソロジー』、東京、1994。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義の際に資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅲ 日本文学と絵画	01	春 学 期	2 単 位	三 浦 俊 介
	02	秋 学 期	2 単 位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>風景を見て絵を描いたり、言葉で説明したりする時、表現者は自らの目や心のフィルターを通して認識したものを表現することになる。</p> <p>表現された景物はあくまでも「心象風景」である。外界を忠実に写生したり、脳内のイメージを具現化したり、虚構を交えたりして多種多様な絵画や文学が成立する。さらに絵画化される文学や、絵画化される文学や文字化される絵画の問題もある。この講義では、文学と絵画をめぐる諸問題について、日本の事例を用いて具体的に考察したい。</p>	<p>[講義計画] 講義は以下の内容で進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、言語と絵画 2、自然・絵画・文学 3、叙景歌の成立 —— 万葉集 4、言の葉の変化 —— 万葉集から古今集へ 5、屏風絵と和歌 —— 古今集 6、嵐も白き春の曙 —— 新古今集 7、仏陀の図像 8、絵巻の描法 9、源氏物語絵 10、伊勢物語絵 11、扇の絵解き 12、御伽草子絵巻 13、風景は文学が創る 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>① 定期試験の成績を重視する。 ② 毎回出席を取り、評価の参考にする。欠席過多者は不可。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>多岐にわたるので、講義の中で随時紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ －フランス文学とその背景－		春学期	2単位	中 所 聖 一
[講義概要・学習目標] わたしたちが一つの国（地域）の文化を理解しようとする際、現在、表層に現れている現象を解釈する他に、そこに残されてきた、いわゆる古典を知るという方法も有効であるに違いありません。この授業では、フランス文学の基盤であるケルト文化、ギリシア・ローマ文化、そしてキリスト教を意識しつつ、18世紀までの主要作品を概観します。個々の作品解釈にとどまらず、それらを通して、その時々々の社会および思想的背景をみなさんに汲み取ってもらいたいと思います。それゆえ、授業で取り挙げる作品は必ずしも純粋な文学作品とは限らず、時事的なもの、いくぶん哲学的なものも含まれますが、作品のタイプに応じて、文学作品分析のモデルを、あるいは、語られる思想の意味するところを提示してゆくことになります。それらをあくまでも大きく、流れとして把握することによって、フランス文化（フランスの思考）を理解してもらいたいと考えています。	[講義計画] ①フランス文学の基盤 ②伝説から物語へ ③ルネサンス期におけるユマニズムと荒唐無稽 ④「理性」と「情念」 ⑤啓蒙思想と教育小説			
[成績評価の方法] 必ず読んでもらう作品（3～4作）を指定し、それぞれについてのレポートを、各指定時期までに提出してもらいます。それに出席状況を加味して、総合評価します。	[参考文献] 渡辺一夫・鈴木力衛 著、『増補 フランス文学案内』、岩波文庫。 他は、授業時に紹介する。			
[教科書] なし。随時、プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ 芸術・言語・価値観の比較		春学期	2単位	テレンス オブライエン Terence J. O'Brien
[講義概要・学習目標] This course is a series of lectures in English. I will try to make the course easy to understand, so if you have a little confidence in your English, why don't you try to listen to these lectures. The aim of the course is to give students an insight into some differences between the countries of Japan, the UK and the USA. I will talk about their cultures, their societies, their art, and their social values. Students are expected to listen carefully and to take notes during the lectures. Students should also think carefully about the points raised in the lectures.	[講義計画] 1 Introduction 7 Social history (i) 2 Japan - UK, a comparison 8 Social history (ii) 3 Churches 9 The start of pop music 4 Houses 10 Art (i) 5 Bathrooms 11 Art (ii) 6 Test 12 Time 13 Test			
[成績評価の方法] Students' grades will be calculated from (i) attendance, and (ii) from two tests. In these tests you will write essays in English, but you may use your class notes and your dictionaries.	[参考文献]			
[教科書] I will give you some prints during each lecture.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（映画の歴史・映像表現論Ⅰ）		秋学期	2単位	水口 薫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間は、言語、文学、絵画、写真のメディアを発明、記録表現してきた。そして、これらのメディアと違う、時間経過を記録、再生できる映画（映像）が誕生して一世紀が過ぎた。映画は、コミュニケーション（伝達）の手段として、表現方法、映画言語をみだし、芸術が生まれた。そこには民族の歴史、文化、習慣が色濃く現れている。</p> <p>本講義では、動く絵の原理、映画の発明、その歴史、映画言語を学び、映画を見ることによって、人間の異文化を理解するためのメディア・リテラシー（映像の読み書き能力）を身につけることをめざす。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>〔映画の歴史〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動く映像とは？ 目の残像現象について 2. 映画の発明 エジソンとリュミエール兄弟 3. 映画言語とは？ グリフィスとエイゼンシュテイン 4. 映画の発達 サイレントからトーキーへ 5. 映画のジャンル コンティニューイティエーとは 6. 劇映画と記録映画 7. レニ・リーフェンシュタールとヒトラー 8. 映画監督・作家について チャップリン 9. 日本映画 溝口健二、小津安二郎、黒澤明 10. 映画のスタッフ キャメラマン宮川 一夫 11. メディア・リテラシーとは 12. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点で総合評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「映画の教科書 どのように映画を読むか」 ジェームス・モナコ（著）（フィルムアート社） 岩本憲児、内山・樹、杉山昭夫他（編）</p> <p>「メディア・リテラシー マスメディアを読み解く」 カナダ・オンタリオ州教育省（編）（リベルタ出版） F C T（市民のテレビの会）（訳） その他、講義の時に提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし。適時、プリントを配布。受講者多数の場合は変更。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ ーフランスの近代小説ー		秋学期	2単位	中 所 聖 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小説の世紀であったとも言える19世紀から、小説が読まれなくなったと言われる現代にかけての主要な小説作品を読み解いてゆきます。それによって、小説の内容や技法そのものの変遷はもちろん、人間観・世界観の変化、また、特に20世紀における希望の困難さが鮮明になるでしょう。この授業では、基本的にフランスの小説という枠内で講義を行います。小説の多くは、個々の作品解釈にとどまらず、その時々のお社会的および思想的背景を知ることが要求されます。それゆえ、小説ではない作品（かなり哲学的な作品）も扱いますが、作品に即して、文学作品分析のモデルと多様性を、あるいは、語られる思想の意味するところを理解していただきたいと思います。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ロマン主義の小説 ②リアリズムおよび自然主義の小説 ③ベル・エポックの文学 ④シュール・レアリスム ⑤実存主義の文学 ⑥ヌーヴォー・ロマンとその後 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>必ず読んでもらう作品（3～4作）を指定し、それぞれについてのレポートを、各指定時期までに提出してもらいます。それに出席状況を加味して、総合評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業時に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし。随時、プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（樋口一葉『たけくらべ』Ⅰ）		春学期	2単位	佐藤慶子
【講義概要・学習目標】 明治時代の女流作家、樋口一葉の代表作「たけくらべ」を取り上げる。 「たけくらべ」は、樋口一葉がわずか24歳の生涯で残した、22編の短編小説中、最も長く、前期で前半を、後期で後半を読むことにする。全編を読みたければ、前期、後期共に受講すればよいが、前期のみ、後期のみでも、支障の無いよう配慮する。 高校では、少年少女の淡い恋をテーマとしていると教えられるが、子供の世界は、大人とその社会の縮図であり、子供の眼を通して、厳しい現実を冷酷に描き出した作品と言った方がよい。 子供達の生きざまと彼等の予想される将来を見つめながら、私達も自身の生き方を考えたい。	【講義計画】 担当者を決めて発表させ、質疑応答と討論で授業を進めるので、発表者以外にも積極的に意見を述べてほしい。			
【成績評価の方法】 出席を重視し、期末試験に、授業中の発表、態度を加算する。	【参考文献】 『樋口一葉全集・第一巻』筑摩書房。			
【教科書】 樋口一葉『たけくらべ・にごりえ』角川文庫。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界の文化Ⅳ（樋口一葉『たけくらべ』Ⅱ）		秋学期	2単位	佐藤慶子
【講義概要・学習目標】 明治時代の女流作家、樋口一葉の代表作「たけくらべ」を取り上げる。 「たけくらべ」は、樋口一葉がわずか24歳の生涯で残した、22編の短編小説中、最も長く、前期で前半を、後期で後半を読むことにする。全編を読みたければ、前期、後期共に受講すればよいが、前期のみ、後期のみでも、支障の無いよう配慮する。 高校では、少年少女の淡い恋をテーマとしていると教えられるが、子供の世界は、大人とその社会の縮図であり、子供の眼を通して、厳しい現実を冷酷に描き出した作品と言った方がよい。 子供達の生きざまと彼等の予想される将来を見つめながら、私達も自身の生き方を考えたい。	【講義計画】 担当者を決めて発表させ、質疑応答と討論で授業を進めるので、発表者以外にも積極的に意見を述べてほしい。			
【成績評価の方法】 出席を重視し、期末試験に、授業中の発表、態度を加算する。	【参考文献】 『樋口一葉全集・第一巻』筑摩書房。			
【教科書】 樋口一葉『たけくらべ・にごりえ』角川文庫。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (20世紀のヨーロッパ)	0 1 0 2	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	山 田 義 顕
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本年は、第一次世界大戦の勃発から第二次世界大戦の勃発までのヨーロッパの諸問題を扱う。19世紀に世界に君臨したヨーロッパが、20世紀にどのような変容をとげるか、国際関係、ファシズムの問題などを含めて論じることとする。なお、講義のさいにミニ・レポートを課することがある。質問・疑問などを書いてもらい、それにもとづいてさらに講義を進めることにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>主なテーマ</p> <p>①第一次世界大戦の原因と展開：1870年代から1914年までのヨーロッパ諸国の動向と、大戦にいたる過程を考察する。</p> <p>②ヴェルサイユ体制の成立と展開：1919年から1933年にかけてのヨーロッパ国際関係を、とりわけドイツ問題を中心に論じる。</p> <p>③ファシズムの諸問題：ファシズムを思想・運動・体制の面から考察し、その特質と問題点を探る。</p> <p>④第二次世界大戦への道：ヒトラーの政権掌握から大戦勃発にいたるヨーロッパ国際関係の展開について論じる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席と、レポートもしくは試験によって評価する</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に必要に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし。講義のさいに、プリントを配布する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (日本史のなかの子どもたち)	0 1 0 2	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	生 瀬 克 己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>過去から現在において、日本人はどのような児童観を持ってきたか。そして、それぞれの時代における児童観を前提とするとき、その児童期のあり方はどのようなものであったのか。わたしたちの歴史を前提とするとき、子どもの生命と幸福を守るとは何を意味するのか。こうした課題にできるだけ具体的にアプローチしていくことにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>いわゆる教育史ではなくて、子どもの「遊び」を中心にすえて、子どもの生活の移り変わりと、その移り変わりの契機になったものに注目し、子どもの生活とその歴史のなかにある多面的で、多彩な側面に注目していくことにしたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義のテーマごとに小論文を教室内で書いてもらうなどの方法で、毎回の講義の理解度の確認結果と、学期末に実施する筆記試験の両者を参考にして評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要などきに、それぞれ紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				